



誰もが仕事を通して地域の担い手になる

近年、農業と福祉を結びつけてそれぞれの課題を一括して解決しようとする「農福連携」が広がっています。京都府でも本年5月に「きょうと農福連携センター」が開設され、農業による障害者の就労機会の創設や地域住民と交流をする居場所づくりを行うことにより、「共生社会」の実現を目指した京都式の取り組みを進めていこうとされています。今回、早くから「農福連携」の取り組みを行ってこられ、平成27年に国より「農福連携モデル事業所」（全国9事業所）の一つにも選出された京都聴覚言語障害者福祉協会の山城就労支援事業所「さんさん山城」（京田辺市）の実践を紹介します。



地域と関わりながら楽しく仕事をする

さんさん山城は聴覚障害などがある障害者の就労支援施設として平成23年に開所し、当初から利用者が地域の人と関わりながら仕事をするのが意識的に追求されてきました。開所時から関わってきた職員の藤永実さんは次のように語ります。

「周辺一帯は農地や緑地など自然がたくさん。恵まれた環境ながら、農家は高齢化が進み、後継者不足は深刻で耕作されなくなった農地も少なくありません。私たちには農業の知識も技術もありませんが、幸い人手はいます。人手を要する農業と地域に根ざした仕事をしたい私たちがうまく結びつけば、地域経済の活性化に役立つと考えたのです」

「産地担い手養成塾」（京田辺市の生産者組織が中心となり、



主役は職員ではなく利用者

宇治茶・えびいも・京都田辺茄子の栽培・加工・販売まで一貫して行うことにより、誰もが活躍できる場を用意することができます。畑作業を行う人、出荷作業を行う人、加工品を作る人、コミュニティカフェで調理や接客を行う人、イベントなどに出席して販売を担当する人など様々です。

で利用できそうです」と夢がふくらみます。

「さんさん山城が地域にあったよかった」。藤永さんや新免さんは、こう言ってもらえるようにがんばりたいと意気込んでいます。

＊ ＊ ＊

障害者と地域が仕事を通じてどのようにつながればいいのか。さんさん山城が地域の特性を考慮して出した答えは「農福連携」でした。こうした障害者と地域の自然な交流が「地域共生社会」の土壌を豊かなものに

DATA
社会福祉法人
京都聴覚言語障害者福祉協会
就労継続支援B型
山城就労支援事業所
「さんさん山城」
〒610-0322
京都府京田辺市興戸小毛詰18番1
TEL. 0774-39-7113
FAX. 0774-65-4102

ていくのではないだろうか。障害者が農業や地域コミュニティづくりの担い手になって地域を支える時代は、すでに始まっています。



「さんさん山城が地域にあってよかった」と言われるように

地域において、さんさん山城の存在感はますます大きくなっています。

京田辺市役所農政課の伊藤臣亮さんによれば「さんさん山城の利用者は支援される障害者ではなく、地域経済の活性化に役買う農家の担い手さんであり、貴重な人材。就労支援事業所といえは屋内作業が多いのですが、こちらは畑に出て農作業をされ

るので、地域住民にとっても親近感があり、互いに理解が深まるのでは。コミュニティカフェにより、さらに地域に開かれた施設になったと思います」。山城北農業改良普及センターの寺岸明彦さんは「非常に勉強熱心で、農業と商業を結びアグリビジネス講座にも出席されています。農業を通じた地域貢献、農業を軸にした産業連携のよいモ



京都田辺茄子の出荷作業▶

◀ 藤永 実さん



▶ しんみん 新免 修さん



◀ 宇治茶を使ったお菓子
濃茶大福、抹茶クッキー



▶ ランチ交流会の様子